
パラレルワールドへようこそ

名執有夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルワールドへようこそ

【Nコード】

N0591R

【作者名】

名執有夢

【あらすじ】

～ストーリー～

主人公・神崎匠^{かんざきたくみ}は有名私立中学に通う少年。二年連続生徒会長を務め、成績優秀スポーツ万能な匠は生まれつき不思議な力を持っていた。

そんな彼が15歳の誕生日に目を覚ますと…世界は魔法の力がはびこる魔法界へと変貌していた。

戸惑う匠のそばには一通の手紙。便せんには丸い文字で

「パラレルワールドへようこそ」

と記されていた...

登場人物紹介（前書き）

オリジナルのファンタジー小説です。
つたない文章ですがよろしくお願いします

登場人物紹介

登場人物

かんざきたくみ
神崎匠

主人公。15歳の誕生日に魔法のはびこるパラレルワールドへと迷いこむ。生まれつき不思議な力を持っている

かんざきみお
神崎美緒

主人公の妹。病弱で控えめな性格だったが、パラレルワールドでは健康優良で魔法の才にあふれる。風の魔法が得意。

高井奈々（たかいなな）

パラレルワールドで匠の家の隣に住む少女。水を操る魔法を得意としている。匠の幼なじみらしいが…

ひいらぎよしき
柊芳樹

匠の親友。パラレルワールドでは匠を敵視している。炎の魔法を手している。

謎の少女

匠がパラレルワールドへ迷いこむ前夜見ていた夢の中に現れた謎の少女。匠にあることを伝えようとしている。

神崎匠の苦悩

「おい、聞いたかよ例の生徒会長」

「ああ、中間試験学年トップだったってな」

「これで何回連続だよ…？」

「なんか推薦の話があちこちから来てるらしいぞ」

「まじかよ…まだ5月だぜ？早すぎ」

羨望と妬みの視線を浴びながら、神崎匠は廊下を歩いていた。2年連続生徒会長を務め、成績はいつもトップ。スポーツでも右に出るものはなかった。

だが、匠はこんな状況にはもううんざりしていた。

匠「全く…県内でも有数の進学校だと聞いていたのに。馬鹿のレベルに合わせるのは疲れる」

産まれてこの方、何をやっても匠より優秀な者はいなかった。

勝ち続ける人生、いや、そもそも競争相手すらもいなかったのだ。故に、匠は飢えていた。自分と同等、それ以上の相手と出会ふことに。

病弱な妹

匠「ただいま」

美緒「あ、おかえりなさいお兄ちゃん」

匠の帰りを迎えたのは妹の美緒だった。生まれつき病弱で、幼い頃は入退院を繰り返していた。現在は匠と同じ中学校の一年生だが、ひと月の半分程しか出席出来ていない。

匠「なんだ、起きてたのか美緒。体調は良いのか？」

美緒「うん、今日は熱もあまりないただ寝てるのも退屈だったから」

匠「そつか。まあ無理はするなよ」

美緒「うん、わかった」

二、三言葉を交わすと匠は自分の部屋へ入る。寝具に机、大量の本以外は何もない殺風景な部屋だ。

匠「ふう……ん？」

ふと壁にかけてあるカレンダーに目がとまる。6月6日、明日の日付に丸がつけてあった。

匠「……ああ、俺の誕生日か。美緒の奴、俺がまた忘れないように勝

手に丸を書いたな」

数年前、匠が自分の誕生日を忘れ美緒が発案した誕生日会をすっぴんかして図書館に行っていたことがあり、それ以来美緒は匠の部屋のカレンダーにしるしをつけるようになった。

匠「そうか、明日だったな」

誕生日などどうでもよかったが、毎年美緒が誕生日を祝ってくれることは嬉しかった。

匠「そういえば去年はこれを貰ったんだっけ」

枕下に置いてあった去年美緒から貰った本を寝転びながら読んでみると、いつの間にか匠の意識は深い闇へと堕ちていった。

謎の声と白い手紙

謎の声（……さん……匠さん……）

なんだろう、どこからか声がした。

謎の声（匠さん……）

誰だ？俺を呼んでいるのは。

謎の声（匠さん……待っていました……ずっと……あなたが帰ってきて下さるのを……）

帰ってきて……？どこにだ……？

謎の声（匠さん……私は待っています）

待て……誰だ、誰なんだ。

匠「……はっ、はあはあ」

唐突に目が覚めた。窓の外はすでに暗くなっていた。

匠「夢か……。寝てしまっていたのか」

すでに時計の針は深夜1時を指していた。少し空腹感を感じたが、

今から食べるのも面倒に思い、そのまま寝てしまつことにした。

匠「…ん？」

枕下に白い手紙が置いてあつた。便せんには

匠「パラレルワールドへようこそ…なんだこりゃ」

特に気にもとめず、手紙を机の上に放ると匠は再び深い眠りについた。

変貌した世界

匠「ん…朝か」

窓から差し込む光を感じて目が覚める。しかし、朝日に照らされた部屋には違和感があった。

匠「…どこだ、ここは」

部屋中が昨日までの自分の部屋とは異なっていた。机や寝具などの配置は同じだが、本棚には漫画がビッシリと詰められ、机の上には筆記用具はおろかボールペンの一本もなかった。

匠「どうなってんだこれは」

ただただ困惑する匠のもとへ、さらにその困惑を大きくさせる来訪者が現れる。

美緒「（ガチャッ）コルア、馬鹿兄貴！いつまで寝てんだあ！」

匠「み…美緒！？」

美緒「なんだ起きてたのか。まったく、なんで私があんたを起こさなきゃなんねーんだつつの」

匠「お前なんだそのしゃべり方…つか体の方は大丈夫なのか？」

美緒「はあ？何寝ぼけてんの？早くしないと遅れるよ」

馬鹿を見るような目で匠を一瞥すると、美緒は部屋を出て行った。

匠「… いったいどうなってんだ」

あまりの環境の変化に、匠はただぼう然と美緒の出で行ったドアを見つめていた。

魔法使い

困惑を抱えながらも、部屋にあるもので唯一見慣れた制服に着替えると、匠は部屋を出た。

美緒「ほら、さっさと行くよ」

匠「あ、ああ…」

慌てて靴を履くと、ドアノブに手を伸ばす。

美緒「あ、兄貴忘れ物」

そう言うとき美緒は長細い包みを投げてよこした。剣道の竹刀のようだったが、にしてはかなり重かった。

匠「なんだこれ」

美緒「何って魔法剣じゃん。それがないと兄貴小学生にもカツアゲされんだから」

匠「は？魔法…剣？」

美緒「何？まだ寝ぼけてんの？」

匠の困惑はいよいよ理解の及ばない所まできていた。魔法などというものが存在するわけがないと。その時、ふと夕べの手紙を思い出した

（パラレルワールドへようこそ）

匠（パラレルワールド…まさか…平行世界のことか…？まさか俺は異世界に…？）

美緒「寝ぼけ兄貴には付き合ってらんない、先行くから」

美緒は匠を置いてドアの外へと出て行つた。慌てて匠は後を追う。

匠「ちよつと待てよ、美緒！魔法って…」

だがその声は別の大きな声に遮られた。

芳樹「神崎美緒！今日こそはお前を倒す」

美緒「柊、アンタまだ諦めてないわけ？アンタじゃあたしには勝てない」

芳樹「うるせえ！」

声の主は匠の唯一の友であり理解者の柊芳樹だった。

匠「芳樹じゃないか、どうしたんだこんな朝早くから。一緒に学校行くか？」

芳樹「ああん？気安く話しかけてんじゃねえよグズが！」

そう言うとき芳樹は右手を掲げる。するとバスケットボール程の大きさの火球が出現し、それを匠に向かって投げつける。

芳樹「消し炭にしてやる！」

匠「うわああああ！？」

だが、火球が匠を襲うことはなかった。寸前で火球は跡形もなく消滅したのだ。

美緒「あんた私の兄貴になにしてんのよ」

芳樹「チッ、忌々しい魔法だぜ。あゝあ、そのグズのせいで萎えちまった。じゃあな」

吐き捨てるように言うと、芳樹は去っていった。

匠「魔法…これが…。芳樹はどうしちゃったんだ」

補足・この世界に置ける魔法の定義

大きく分けて三種類

1、自然系魔法

火や水などを操る魔法。希少で、魔法の才を持つもの1000人に一人しか扱える者がいない。

火土水雷風の五系統の属性があるが、さらに希少種として光闇の属性がある。尚、原則として自然系魔法は一人一種類しか扱えない。また、魔導管理協会が全系統で最も優れた魔導士に帝の称号を与えている（雷 雷帝、火 炎帝等）

2、能力系魔法

自然系魔法以外の魔法。主に術者や物体に作用する。自然系魔法と異なり、魔法の才のある者ならば誰でも扱えるようになり、また複数種類扱える。

3、その他

魔法の宿った水晶や、それを埋め込んだ武具などを使う。種類によつては並の魔導士を凌駕する威力を秘めたものもあるが、極希少。基本的には使用の際魔力を必要としないが、例外もある。

ここから始まった

美緒「全く…兄貴も兄貴だよ。今まであんなにボコボコにやられてたのに、何気軽に挨拶してんのよ」

匠「ボコボコ？ いやだって芳樹は友達だし」

美緒「はあ？ 何言ってるの！？ つか本当にどうしちゃったわけ？ 今日あからさまにへんじゃん」

匠（…やっぱりここは並立世界なのか…俺は異世界に來ちまったのかよ）

焼き殺されかけてようやく匠は現実を理解した。

まさか、と思いたかったが家の門にははつきりと焦げた跡が残っていた。

匠（仕方がない…）

意を決し、匠は重い口を開いた。

匠「美緒…頭が変になったと思っても構わない、ちょっと話を聞いてくれないか」

美緒「な、何よ改まって」

匠は全ての経緯を話した。自分は別世界から來たらしいこと、夢に

謎の少女が出て来たこと、枕元に置いてあった手紙のことなど…。意外にも美緒は匠の奇想天外な話に大人しく耳を傾けていた。

匠「…という訳なんだが」

美緒「ふうん…まあ無い話じゃないわね。過去にもそういうことがあったって記録もあるし」

匠「そうなのか？」

美緒「まあもつとも、原因も何も全部謎だけどね」

匠「…俺はこれからどうしたらいいんだ」

美緒「ま、来ちゃったもんは仕方ないでしょ。柊に殺されないようにその魔法剣の練習でもすれば」

匠があっけに取られるほどドライに言い放つと、美緒は歩き出した。

匠「お、おい待てよ」

匠は慌ててその後をついて行った。背負った魔法剣がやけに重たく感じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0591r/>

パラレルワールドへようこそ

2011年10月8日19時14分発行